

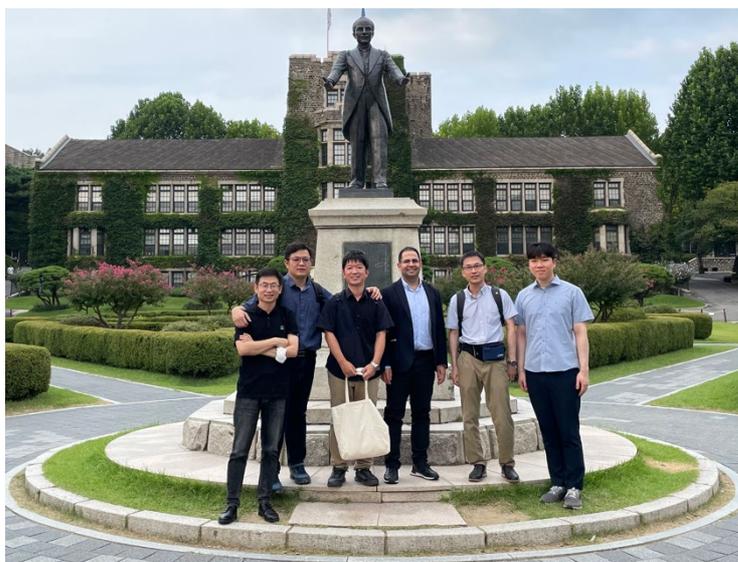
KINGCA week 2023 に参加して

和歌山県立医科大学 第2外科 北谷純也

この度、日本胃癌学会からの助成を頂き、2023年9月11日～16日まで KINGCA week 2023 および Master Class へ参加することが出来ました。私自身は、KINGCA への参加は初めてでしたが、教室の先輩や JCOG 胃癌若手の会のメンバーの先生方から参加された感想などをお聞きし、今年こそ参加してみたいと思ったことがきっかけです。Master Class では Yonsei University, Severance Hospital に訪問させて頂きました。Severance Hospital はソウルの新村にある、韓国で最も歴史のある大きな大学病院の一つです。胃癌の手術件数は、年間1000件を超えており、日本とは異なり大病院に集約化されております。そのうちロボット手術は800件と韓国の中でもロボット手術を推進しており、INTUITIVE の Epicenter に指定されています。もちろん本施設を希望したのは、Woo Jin Hyung 教授が率いられる外科教室は、ロボット胃癌手術の先進施設であり一度その技術を見学させて頂きたいと思ったからです。我々の施設でも、ロボット胃癌手術ならびに食道癌手術を積極的に行っておりますが、国際的な high volume センターとの違いなどを勉強させて頂く良い機会であると思えました。3日間の訪問期間中に16件の胃癌手術が行われ、ロボット手術はもとより腹腔鏡手術、単孔手術など多くの手術を見学させて頂きました。Severance Hospital での Master Class へは私を含め、4名の外科医が参加しました。トルコから Aydin Yavuz 先生、シンガポールから Kon Voi Tay 先生、日本から大阪赤十字病院の吉田真也先生と私の構成でした。病院や手術室の案内などは、外科 fellow の Ki Yoon Kim 先生が御世話下さいました。また、中国から fellowship でこられている Li Hua 先生や、インドから手術の勉強に来られている先生方などとも、各国での胃癌治療の現状や、ロボット手術などの低侵襲手術への取り組みや再建方法などに関して意見を交わし、国によってそれぞれ特色があることが分かり非常に興味深かったです。



実際に、非常に勉強になった胃癌手術を紹介いたします。初日に見学させて頂いた、Yoo Min Kim 先生のロボット支援下噴門側胃切除、完全体腔内ダブルフラップ再建です。体腔外でのフラップ作成が本邦では一般的と思いますが、フラップの作成から吻合までをすべて体腔内で行われていました。できあ



がりも非常にきれいで感銘を受けました。続いて2日目に見せて頂いた Woo Jin Hyung 教授のロボット支援下幽門側胃切除術です。何件か見せて頂きましたが、B-I 再建であればコンソール時間が1時間ぐらいで非常にスピーディー、且つ郭清も非常にきれいに行われていました。おそらく、1番アームの超音波凝固切開装置が有効で、デバイスの入れ替えが少ないため短時間での手術が可能になっていると思いました。さらに、ICGでのナビゲーションや脈管の3D構築を用いたナビゲーション手術なども併用されており、切離する際の迷いが全くないように感じました。また、3日目に見せて頂いた、Hyung-II Kim 教授のダヴィンチ SPでのロボット胃切除も非常に勉強になりました。ロボット支援下手術は基本的に solo surgery で行われますが、SPでの胃切除では助手との協調が非常に重要で、助手の役目も大きくなると思いました。

期間中には Li Hua 先生に案内を頂き、明洞の他に、新村や地元の若者文化の発信地である弘大などの観光もさせて頂きました。ソウルは国際的な大都市であり、刺激的で活気のある大都市であることを実感出来ました。また、KINGCA WEEK Yonsei Univ. Dinner を催して頂き、非常においしいバーベキューをごちそうになりました。

9月14日からは、KINGCA conference 2023 が Lotte ホテルで開催され、Yonsei の Master



Class のメンバーと一緒に参加いたしました。参加人数は800名程度とお聞きしたので、日本の胃癌学会よりは小規模でありましたが、韓国はもとより、外国からの参加者が多く、international symposium にふさわしい雰囲気を感じることが出来ました。また英語での発表や討論は、日本の学会でも普及すべきだと感じました。私は、これまで和歌山県立医大で積極的に取り組んでいる高度進行癌に対するロボット支援下手術をまとめて「Safety and feasibility of robotic gastrectomy for highly advanced gastric cancer after chemotherapy」という内容で発表させて頂きました。大変光栄なことに、KINGCA2023 Best Poster Presentation Awards を受賞することが出来ました。この様な国際学会で賞を受賞出来

るとは思っていなかったので大変驚き、また喜びも大きかったです。私自身も指導する側の年齢になって来ているのですが、この様な他施設での手術見学や国際交流は非常に意義深いものと考え、今後は、後輩の胃外科医の先生にも KINGCA や Master Class に是非参加して欲しいと思っております。また、私自身も先進的な手術を勉強できる有意義なプログラムである KINGCA week に来年も参加したいと思っております。KINGCA での出会いは私の外科医人生にとって、大きな財産になりました。この様な貴重な経験をさせて頂き、ご支援賜りました日本胃癌学会の掛地吉弘教授、竹内裕也教授、小寺泰弘教授に厚く御礼申し上げます。是非、この様な若手外科医に魅力的なプログラムのご支援が今後も継続していくことを切に願います。